電子付録

タイトル日本語（16ポイント；明朝）

―サブタイトル日本語―（9ポイント；明朝）―

第一著者名・第二著者名・第三著者名（12ポイント；明朝．著者名のみ）

付録A．全般的な注意事項

●ページ数は，このテンプレートで最大4ページ．ただし，投稿者の意図とは異なるかたちで表が組版される場合があるので，制限分量ぎりぎりに電子付録を作成してはならない．

●このファイルに直接文章を記述し，図表を貼り付ける．テンプレートファイルに似せて自ら作成したWordファイルを使用してはならない．

●図表ボックスの位置取りがうまくいかない場合は，次のように対処する．①図表ボックスをいったん別のテンプレートファイルに退避させる．②文章を全て入力する．③上から順に図表ボックスを適切な位置に貼り付ける．

●節見出しは9ポイント；ゴシック；Arial．（付録Aと付録B以降でスタイルが異なるので注意）．

●付録A，付録B，付録C，…のようにアルファベット順に節区切りを行い，節ごとに独立したトピックを取り扱う．節内を中節や小節で区切る場合は研究論文本体と同様に，以下の項見出しスタイルを用いる．

（1）中節

1）小節

表B1．タイトル（8.5ポイント；明朝；Century）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 行A1) |  |  |  |  |  |  |
| 行B2) |  |  |  |  |  |  |

表B2．タイトル（8.5ポイント；明朝；Century）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 行A1) |  |  |  |  |  |  |
| 行B2) |  |  |  |  |  |  |

表A1．タイトル（8.5ポイント；明朝；Century）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 行A1) |  |  |  |  |  |  |
| 行B2) |  |  |  |  |  |  |

資料：図表キャプション（7.5ポイント；明朝；Century）．URLを直接記述してはならない（引用文献にリストすること）．

1）注の文（7.5ポイント；明朝；Century）．スタイル「図表の注」を適用．

2）片カッコ付の連続した番号を振ること．

●電子付録は論文本体から独立したPDFファイルとしてJ-stageにアップロードされる．論文本体と電子付録を相互にリンクできないので，電子付録における注や引用文献は，研究論文本体と重複したとしても，全て電子付録内に記載されなければならない．

●研究論文本体の紙幅節約のために，注や引用文献の一部を退避させる目的で電子付録を使用することは認めない．

★本文日本語（8. 5ポイント；明朝；Century）．

★A4で余白は上下各47mm，左右各34.5mm．

★1行全角23文字，2頁目以降1頁につき43行．★読点は「，」で句点は「．」．

付録B．図表，数式，注，引用文献の記載方法

●図表，数式，注，引用文献の記載方法は，断りがない限り，研究論文本体と同じとする．これらの詳細は研究論文テンプレートを参照すること．

●電子付録における図表番号の付け方は論文本体と異なる．電子付録における図表番号には，それらが参照されている付録の節に対応するアルファベット（A，B，C，…）を付し，付録の節ごとに番号を1から振る．この電子付録テンプレートファイルに貼り付けられた図表番号の付け方を参考にすること．

付録C．論文本体での電子付録の言及方法



図C1．タイトル

資料：図表キャプション．URLを直接記述してはならない（引用文献にリストすること）．

1）図はモノクロ（白黒）で作成すること．

図C2．タイトル

資料：図表キャプション．URLを直接記述してはならない（引用文献にリストすること）．

1）図はモノクロ（白黒）で作成すること．

●論文本体で電子付録を参照する場合は，以下のような例に従って，電子付録の節までを明記すること．

（例1）本稿で用いた分析モデルの詳細な式展開は電子付録の付録Aに記載した．

（例2）分析にあたり，50戸の農家に対する聞き取り調査が行われた（調査内容の詳細は電子付録の付録Bを参照）．

注

1 スタイル「注釈」（7ポイント；明朝；Century）．

2 注番号は上付き文字にし，注の文章を書き始めること．なお，本文や図表資料，注に引用文献の書誌情報（タイトルやURLなど）を直接記述してはならない．

引用文献

文献本文（7ポイント；明朝；Century）

投稿規程細則（http://a-rafe.org/4/2/130）の記載例に従って記述して下さい．

鈴木農経（2013）「〇□△×の□◎と×〇に対する影響」『□△◎研究』15(2)，1-11．

Chiiki, N. (1991) Literatures in foreign language should be placed separately from Japanese literature. Journal of ####, 10(1), 54-63.